

データ利用権取引市場  
バッチ一覧

3.00 版

2024年1月10日

担当	査問	承認
ESJ		

## 改版履歷

[illegible]

■バッチ一覧

No.	システム分類	機能分類	バッチ名	バッチ名（英名）	バッチID	実装方式	アクセス対象	起動スケジューリング			外部システム		機能説明
								実行間隔	設定値	実行時間	取得	送信	
1	清算機関	集計	収支日時集計	Balance Daily Summary (※3)	balanceDailySummary	SQL	RDS（清算機関）	毎取引終了後（毎1時00分）	0 1 * * *	23v4 清算機関開発では性能については検証しない	－	－	取引履歴TBLに登録された情報を、収支確認ができるよう集計し、 収支管理TBLへ登録する ※取引終了後、RDSは稼働させ、深夜に前日の集計を実施する
2	利用権取引システム	清算機関連携	約定情報連携	contractInfo Sqs Consumer	contractInfoSqsConsumer	SQS（標準キュー） +Lambda（※1）	RDS DynamoDb	ロングポーリング （SQSメッセージ送信タイミング） （※2）	20（秒）	15分以内（※4）	－	清算機関	約定情報の清算機関への連携を行う 約定IDをもとに約定情報を取得し、取引履歴情報登録APIを呼び出す 売買機能の「注文・約定API」にて、SQSキューへメッセージを格納した 際に実行される

※1：イベントソースマッピングを行い、SQSとLambdaを関連付ける  
※2：Lambdaがメッセージをポーリングして応答を返す前に待機する時間(1～20秒)（0秒：ショートポーリング）  
※3：cron.schedule 関数でスケジュールされた cron ジョブの名前  
※4：Lambdaの実行時間制限を超えない処理数（約定ID単位の情報をまとめて複数送信）  
データ送信量が6MBバイトを超える場合、6MB以内のデータ量に区切って繰り返し約定情報APIへ送信